

（様式6-c）C. 学位論文（Thesis）で発表論文のない場合

DADAN MULYANA KOSASIH氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Determinant factors behind changes in health-seeking behaviour before and after implementation of universal health coverage in Indonesia

（インドネシアにおける国民皆保険制度導入前後の健康追求行動の変化の決定要因）

学位論文（Thesis）

発表予定論文

タイトル：Determinant factors behind changes in health-seeking behaviour before and after implementation of universal health coverage in Indonesia

BMC Public Health（投稿中）

Dadan Mulyana Kosasih, Sony Adam, Mitsuo Uchida, Chiho Yamazaki, Hiroshi Koyama, Kei Hamazaki

論文の要旨及び判定理由

インドネシアの医療保険制度は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に向けて2014年に再編が行われ、それまで大きく4つあった医療保険制度が1つの国民皆保険制度に統合された。新制度により、これまで無保険だった層も含め、全ての国民が経済的な困難を伴うことなく保健医療サービスを受けられるようになった。本研究の目的は、インドネシアにおける国民皆保険制度導入前後の健康追求行動の変化を調べ、これらの変化を決定する要因を明らかにすることにある。インドネシアのバンドン市において、想起法による質問紙調査を使って後向きコホート研究を2019年に実施した。調査対象者は、バンドン市在住の23歳以上で、最近疾患に罹患していた者（過去2週間以内の急性疾患の経験を有する者、または現在慢性疾患を有する者）とし、無作為抽出と有意抽出の2段階で抽出した。健康追求行動を目的変数とし、国民皆保険制度の導入を独立変数とした。また、健康追求行動に影響を与える可能性のある変数をAndersenの医療サービス利用の行動モデルに基づいて選択し、調整変数として用いた。国民皆保険制度の導入は、急性疾患を有する者よりも慢性疾患を有する者に対して大きな影響があった。また、公的医療機関における医療サービスの質の向上に寄与し、それによって人々がこれらのサービス利用を選択する可能性が高まった可能性が考えられる。さらに、インフォーマルケア（市販医薬品による自己治療、伝統的民間療法（薬草を含む）など）から公的機関での治療に移行することで、医療利用の安全性が向上した可能性もある。導入により公的医療機関の利用率は向上したが、健康保険にまだ加入していない人々が存在することも示された。健康保険に加入していないことは、将来、必要なときに医療サービスへのアクセスや利用を脅かす潜在的な問題となりうる。本研究は持続可能な開発目標SDGsで掲げる「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けて、インドネシアにおける新国民皆保険制度導入の効果と課題を示し、今後の政策や医療資源の適切な分配・管理を検討するうえで基礎となり得る意義のある報告と認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（審査 令和4年2月9日）

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） リハビリテーション医学分野担任	和田 直樹	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 医療の質・安全学分野担任	小松 康宏	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 総合医療学分野担任	小和瀬 桂子	印